

コアジサシ *Sterna albifrons* Pallas

【選定理由】

本来は海岸や河川の砂地、干拓地の荒地などで繁殖していた種であるが、戦後伊勢・三河湾沿岸の海面で埋め立て事業が始まると、ここに出来た一時的な裸地と淡水の水溜まりがこの種の繁殖適地となった。近年になって県内から埋め立てができる場所がなくなり、全ての埋立地が乾燥化、草地化すると、本来の繁殖環境を含め、県内から本種の繁殖環境は消失してしまった。

【形態】

全長約 22～28cm、翼開長 47～55cm。上面は青灰色で下面は白色。尾は白色で、外側尾羽が長く飛行時は燕尾状に見える。夏羽は、頭頂から後頭にかけて黒色で、額は白色で過眼線は黒色、嘴は黄色で先端が黒色、脚は橙黄色。冬羽は、額の白色が頭頂まで広がり、嘴と脚は黒色。幼羽は、冬羽に似るが背に褐色の小斑がある。



愛知県碧南市, 2017年6月1日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

4月から7月に伊勢・三河湾沿岸および内陸の河川の砂地や造成地などに飛来して繁殖し、8月以降は干潟などで渡去前の群れが見られることがある。

【国内の分布】

夏期、主に本州以南に飛来して繁殖する。

【世界の分布】

ヨーロッパ、ロシア西部、中東、インド、東南アジア、オーストラリア、アフリカ、北アメリカ中部から南アメリカ北部で繁殖し、北方のものは冬期に南下し越冬する。7～10亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

沿岸部の埋立地や干拓地、河川の河原や造成地などで繁殖する。繁殖地に集合するのは4月下旬からで、5月には抱卵を始め、順調であれば6月中旬にはヒナが少し飛べるようになる。ただし、繁殖の早い時期に豪雨や天敵などで繁殖が失敗すると、成功している群れの繁殖地に集合して、繁殖を再開するものや、時期を逃して繁殖できない個体も集まり、大きなコロニーを形成して7月末まで繁殖が続く。海や河川、池や水路の上空を飛びながら、水中に飛び込んで主に小魚を捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

2010年までは繁殖後期に、1箇所の繁殖地で5,000羽以上の群れが確認されることもあったが、沿岸部から埋立てをする場所がなくなると激減し、2018年と2019年の繁殖期に県内で最低1羽以上のヒナを巣立ちさせることができたのは、多めにみても数十ペア程度と推測される。減少の要因は繁殖環境の消失と、カラス類やチョウゲンボウなど、天敵の分布が拡大していることがあげられる。

【保全上の留意点】

早急に干拓地や埋立地の遊休部分にコアジサシの繁殖環境を復元する努力と、天敵であるカラス類や猛禽類の被害を減少させるための工夫が必要である。

【特記事項】

最近衣浦湾岸の企業の協力を得て、親鳥の数で500羽近いコロニーの誘致に成功したが、最近県内で繁殖するようになった数ペアのチョウゲンボウによって孵化直後のヒナが捕食され、繁殖は失敗した。今後は本種の繁殖場所を確保すると共に、天敵の影響を軽減する努力も必要である。

【関連文献】

茂田良光, 2000. コアジサシの分布と分類. *Birder*, 第6巻 第7号. pp18-21. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)